

# とどく、広がる、大地の恵み。

## ごあいさつ

いわき市中央卸売市場は、昭和52年9月に開場致しました。

敷地21万㎡、総工費57億円を投じた当市場は、いわき市を含めた当地方に於ける唯一の公設生鮮品卸売市場として、茨城県北部から福島県浜通り一帯、約100万人の消費者に対し四季を通じて青果物、水産物、花き等の供給を果して居ります。

当社は、当市場に於ける単一の青果卸売会社でありまして、青果物全般に関する集荷及び販売を担当して居りますが、公設市場の卸売会社として、その期待される責

任は大きく、毎日の業務を通じて青果物の需給の安定、公正な価格の実現の為に、努力を重ねて居るところであります。

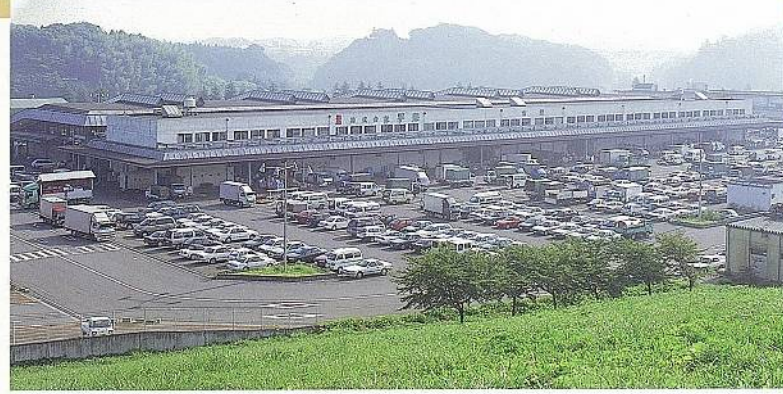
青果物の需要に関しましては、これからも時代と共に変化を重ねて行く事と思いますが、私共は絶えざる業務上の研鑽の中で、常に生産と消費両面のよき媒介者として、市民消費生活の安定と農業生産振興の為に盡力して参りたいと思っております。

皆様の御引立と御指導をお願い致します。

株式会社 平 果



代表取締役社長  
鈴木 光榮



21万㎡の広大な敷地は、「いわき」の食を支える大きな台所。全国各地から届く新鮮な食材と繁華の熱気に包まれています。



卸売業者は、目まぐるしく変化する消費者のニーズと必要量を正しく把握し、適正な集荷に努めます。また、農作物は季節や天候に左右されやすいという性格を持っていますので、全国各地の生産者と入荷についての連絡を密に取りあうことも、大切な仕事のひとつ。

言わば、生産者と消費者の橋渡しの役割を担っているわけです。“必要なものを、必要なときに、必要なだけ集荷”することを基本として、消費者への安定供給のために、様々な努力が払われています。

## 1日の流れ



入荷

配列・下見

せり売り・分荷販売

事務処理



全国各地から集荷した大量の品物は、7,186㎡の面積を持つ青果卸売場へ品目別、種類別に配列されます。多種多様な品物が、この広い空間を鮮やかに彩り埋めつくす様は圧巻。仲卸業者や

売買参加者は、せりが始まるまでの間、この広い卸売場をじっくり見てまわり、どの品物をどのくらいの値段で仕入れるかを決めます。価格は、その日の入荷状況や品質によって毎日変わります。

## 3 せり売り・分荷販売

せり売りは、買手である仲卸業者や売買参加者が値段をつけあい、最高値が価格となり、ここで初めて品物の値段（卸売価格）がきまります。威勢のいい掛け声が飛び交う中、せり落とされた品物は、落札者に引き取られ、買出入が買いやすいように仲卸店舗で陳列し販売されたり、市内の店舗で一般の消費者のみなさんに売られます。



## 4 事務処理



様々な過程を経て売買される大量の品物——これを陰で支えているのが、平果のバックオフィスです。コンピュータシステムで、その日の入荷・売買取況をリアルタイムにとらえ、スムーズな業務運行を可能にしています。



消費者

